



十一月、「伊能図展」を開催

特集 よみがえる伊能図	2・3
先端技術を駆使、エコに貢献 工学部	4
社会に光と彩りを添えるデザイン 情報デザイン学部	5
プレゼминаールで学ぶ社会の諸相 現代社会学部	6
学舎の思い出も未来のチカラに 短期大学部	7
高校から発信	8・9
留学生交流会	10
第23回学外展「liberté ～リベルテ～」	10
学生時代の思い出と社会人になって思うこと	11
東日本大震災、本学院の支援活動	11
「伊能図展」開催のご案内	12
今後の主な行事予定	12

「book house — トレーシングペーパーで作るブックカバーデザイン」  
 情報デザイン学科 第4期生  
 (平成23年3月卒業)  
 沖元 葉子(愛媛県立新居浜西高校出身)制作

広報  
 第86号  
 平成23年9月1日発行

URL <http://www.hkg.ac.jp/>  
 ※大学ブログも公開中。あわせてご覧下さい。

# よみがえる伊能図

—完全復元伊能図フロア展、本大学で今秋開催—

来る11月4日(金)から6日(日)の3日間にわたり、本大学体育館において「完全復元伊能図全国巡回フロア展」を開催します。

江戸時代、伊能忠敬は日本全国を回って測量を行い、日本で初めて本格的な地図を作り上げました。その成果である「伊能大図」を体育館フロアに敷き詰め、来場者の方には実際にその上を歩くなどしてご鑑賞いただきます。また、伊能忠敬についての特別講演を開催するほか、映画やビデオの上映を行います。さらに、「測量体験コーナー」も設けています。

「伊能図」の迫力と精巧さをご堪能いただけるこの機会をお見逃しなきよう、皆様お誘い合わせの上、本大学へお越しください。ご来場を心よりお待ちしております。



伊能図 (広島周辺)

## 1. 「伊能図展」開催の趣旨

平成22年が伊能測量開始210年にあたることから、同21年より「完全復元伊能図全国巡回フロア展」が全国展開されています。公募に応じた各学校・施設等が、体育館などを会場に提供してフロア展を開催してきました。

一方、本学院は来年で創立85周年を迎えます。この節目の年にあたり、本学院が目指す「地域に愛される学校」としてより一層地域との共生を図り、地域活性化の一助となるべくこのフロア展を企画しました。なお、本学院の近くには旧山陽道(西国街道)が通っており、その昔参勤交代で江戸に赴き任を終えた大名を家臣らが迎えに来たと伝えられる松並木「出迎えの松」も残っています。

伊能は55歳にして志を立て、全ての行程を自ら歩いて測量し「伊能図」という成果を生み出しました。その偉大な業績は生涯学習の良き手本であり、お子様方にも夢を与える学習の一つにもなると考えています。復元された「伊能図」の上を歩くメインイベントは、来場者にとっても貴重な体験となることと確信しています。

## 2. 日本初の本格的地図、本大学で一挙公開

伊能図フロア展は本大学体育館内に復元した「伊能大図」を敷き詰め、間近に見る、あるいは地図の上を歩くなどして来場者の方にじっくりとご鑑賞いただきます。伊能忠敬の事業を紹介するパネルも展示します。



伊能図展会場の様子 (イメージ)

また、伊能の業績を描いた映画「伊能忠敬 — 子午線の夢 —」を、10時と14時の2回上映します。上映会場は6号館です。この映画で使用した機材(レプリカ)や関連書籍を紹介する資料展も同じく6号館で開催いたします。

さらに10号館では、「伊能忠敬研究会」代表理事の渡辺一郎氏を講師にお迎えし、伊能図に関する特別講演会を5日(土)と6日(日)に行います。伊能の測量術を体験できるコーナーも設置。ビデオ「伊能忠敬 羅針の先にみた日本」は、10号館および体育館の2ヶ所で終日上映します。総合受付を10号館前に設置しますので、会場案内などご不明な点はお気軽にお申し出ください。

なお、開催期間中はJR中野東駅と本大学体育館を結ぶ無料シャトルバスを運行します。是非ご利用ください。



### 3. 伊能忠敬について

伊能忠敬は1745年(延享2)、上総国山辺郡小関村(千葉県山武郡九十九里町小関)の名主・小関五郎左衛門家に生まれました。6歳の時に母が亡くなり、後に父の実家である神保家に引き取られました。

1762年(宝暦12)、17歳で佐原村の酒造家・伊能三郎衛門家に婿入りしました。抜群の商才を発揮し事業を成功させたと言います。1778年(安永7)には妻のミチを伴い奥州松島へ旅行。「奥州紀行」を著しています。1781年(天明元)に佐原村本宿組名主になり、火山噴火や洪水、凶作といった困難に直面しながら堤防の修築などに取り組みました。村方後見に退いてからも、天災による飢饉の折には買い入れた米を安く提供して窮民を救いました。この間の功績で、後に幕府から苗字帯刀を許可されました。49歳で隠居した忠敬は江戸に出て天文・暦学を志し、高橋至時入門しました。

1800年(寛政12)閏4月、蝦夷地および奥州街道の測量を開始。日本地図制作への第一歩を踏み出しました。翌1801年(享和元)には、伊豆から陸奥までの東海岸沿いと奥州街道を測量。1802年(享和2)年、陸奥から越後までの海岸線と越後街道を測量しました。1803年(享和3)に駿河から尾張、越前から越後の海岸線や街道、佐渡島を測量しました。1804年(文化元)に日本東半部沿海地図を作成し、幕府に提出しました。

1805年(文化2)、紀伊半島から岡山の海岸線を、翌年は瀬戸内海の山陽道側の海岸線と島嶼、山陰地方の海岸線や隠岐島を測量し、1807年(文化4)に畿内、中国地方など第五次測量地域の地図を上呈しました。1806年(文化3)に現在の広島県を測量した様子は「浦島測量之図」「御手洗測量之図」に描かれ、呉市で保存されています。伊能測量隊の作業風景を伝える絵図がほとんど残らない中、貴重な史料です。

1808年(文化5)からは四国、淡路島の海岸線と大和、伊勢街道を測量し、翌年四国・大和などの地図を作り上呈。同年8月から中山道、山陽道の街道、九州東・南部、天草諸島、九州から中国地方の街道、甲州街道などを測量し、1811年(文化8)に江戸へ戻りました。同年11月から今度は相模、甲州の街道などを測量しながら九州へと向かいます。翌年九州に渡った伊能は、筑前、筑後を経て屋久島、種子島へ渡海。さらに九州北部の街道、壱岐、対馬、五島列島および中国地方の街道を測量しました。近畿地方などを測量しながら江戸に戻ったのは1814年(文化11)のことでした。

1815年(文化12)から1816年(同13)にかけて、江戸府内の測量を行いました。1816年からは「大日本沿海輿地全図」の作成に取りかかりましたが、完成半ばの1818年(文政元)に死去します。享年73歳でした。伊能の門弟らの協力ですら1821年(文政4)に「大日本沿海輿地全図」および「大日本沿海実測録」が完成し、幕府に上呈されました。

【参考文献】『伊能忠敬の全国測量』 渡辺一郎編著 伊能忠敬研究会発行



伊能忠敬像



伊能大図・広島(部分) 右側、旧山陽道沿いに海田、中野、瀬野など本学院ゆかりの地名が並ぶ

# 先端技術を駆使、エコに貢献

## 工学部

### バイオ(微生物、光合成細菌)による放射性物質の除去

工学部長 佐々木 健

福島原子力発電所の事故以来急に注目され始めたのですが、実は10年も前から行っていた研究です。4年前には実験室レベルで完成し、学会発表と論文発表を行っていました。それまで「我が国では必要のない技術」とほとんど注目されませんでした。事故以来、NHKをはじめ様々なメディアで報道され、広く知られるようになりました。バイオ技術ではおそらく初の実用的放射能除去技術でしょう。

この技術は、どこにでもいる光合成細菌が菌体表面に分泌する高分子物質でマイナスに帯電し、プラスイオンであるウラン、コバルト、ストロンチウム、セシウム等を菌表面に吸着することを利用して取り除くものです。この菌を、新規に開発した軽石のような多孔質セラミック内外に安定して固定化し、生かしておく技術開発も組み合わせることで新規発明となり、水や土壌の中の放射性物質、主に今回はセシウムを除去できる新しい技術となりました。有害重金属である水銀、鉛、クロムやヒ素等も取り除くことができます。

被爆地ヒロシマ発の放射能除去技術として、フクシマでの放射能汚染除去に貢献すべく努力を重ねています。



NHKの取材を受ける佐々木工学部長



ハイブリッドモーター

### 研究開発課題が採択されました — 広島循環型社会推進機構 —

広島県の支援・助成を受けて組織された「NPO法人広島循環型社会推進機構」の平成23年度研究開発課題が、県からの正式承認を受けました。採択された20件の課題の内、本大学教員6名が企業との共同研究として参画する課題は①産業用バッテリー再生②携帯電話のリサイクル③ハイブリッドモーターのリサイクル④小型焼却炉廃熱利用⑤廃ガラス発泡体の用途開発⑥フィルターの再資源化に関するもので、助成総額は2,000万円を超えます。ほとんどの研究課題には、学生が課題探求、あるいは卒業研究で行った要素技術がベースとして含まれています。本大学では学生参加型研究を重視しています。

また、企業との共同研究テーマ：「使用済自動車部品の再資源化のための高齢者・身障者用最適解体技術の研究開発」で、くれ産業振興センターからの補助金を受けることになりました。

広島循環型社会推進機構の理事には本大学から2名の教員が就任していますが、その1人である渡邊真彦准教授は「研究開発課題選考委員会委員」の理事にも就任しました。

### 挑戦と体験、エコがいっぱいのフィールド活動

#### 「環境の日 ひろしま大会に出展！」

6月5日、広島県庁前広場で開催された「環境の日ひろしま大会」(主催：広島県、広島市他)に出展し、本大学のエコキャンパス活動、環境保全技術とエコカーを紹介しました。1,000人以上がブースを訪れ、本大学のアクティビティーに触れました。ステージイベントでは学生らが「広島国際学院大学環境行動宣言」を発表し、環境活動のさらなる推進を誓いました。

#### 学内農地「エコヤード」の開墾と田植え作業の実施

本年度の「エコヤード」体験学習には、学生・教員、合わせて30名近くが参加。樹木伐採・整地・田んぼ作り、水耕栽培装置の設置と植栽を中心とした作業を行った後、恒例の焼き肉パーティーを楽しみました。流しそうめんの台、器、コップ等は本大学の竹林から切り出した孟宗竹から製作。全てが天然素材とエコな時代にふさわしい光景となりました。育てた野菜も収穫・調理し、「地産地消」による食の安全についても学習しました。



作業を終え流しそうめんを楽しむ学生



オープンキャンパスのひとコマ

### オープンキャンパス開催

本年度のオープンキャンパスが7月31日に行われました。

午前10時、学長の挨拶から全体会が始まり、その後、各学部に分かれて学習内容の見学会や体験授業を行いました。

工学部では、バイオ・リサイクル専攻で「DNAの観察」「バイオエタノール車」「農業工学」「名水判定」など資源環境と遺伝子について、機械専攻では「3次元CAD」「スターリングエンジン」などコンピュータによるモノづくり、電気専攻では「プログラムによるロボット制御」「電子楽器による音響実験」「レーザーの実演」など電気に関するミニ実験が行われました。

その他学生企画では、吹奏楽部による演奏、表千家流茶道部によるお茶席、名水カキ氷やボン菓子などのサービスもあって会場は大いに賑わいました。



# 情報デザイン学部 ▶ 社会に光と彩りを添えるデザイン

## せらワイナリー父の日・母の日ワインラベルデザイン

せらワイナリーショップで情報デザイン学部の学生がデザインしたラベルのワインが販売されました。

母の日用ワインラベルのデザインには、久保田恭平君(広島市立広島工業高校出身)、大多和慧君(広島国際学院高校出身)、大岡由佳さん(広島翔洋高校出身)、二井あかねさん(広陵高校出身)のデザインが採用され、母の日ラベルで1位に選ばれた久保田君の作品は、母に対する感謝の気持ちを、カーネーションの花束とハートの形のメッセージカードで表現しています。

父の日用ワインラベルのデザインには、久保知美さん(広島県立広島商業高校出身)、松原雄大君、石田尚之君(広島県瀬戸内高校出身)、牛尾優香さん(広島桜が丘高校出身)のデザインが採用されました。父の日ラベルの1位に選ばれたのは久保さんのデザインです。父の日のイメージカラーとされている「黄色」と青色を組み合わせることによって、父に対する「爽やかな感謝の気持ち」と、父と共に過ごす「幸



久保田君デザインの母の日ラベル



母の日ワインの販売風景



久保さんデザインの父の日ラベル



父の日ワインの販売風景

せ]を表現しています。

今年度の父の日、母の日ラベルには、本学名、マーク、学部名、デザインした学生の氏名を入れ、販売していただきました。

## オーストリアから特別講師授業に来校

6月23日、ニューメディアを使用したコンテンポラリーアートを研究しているVarvara GuljajevaさんとMar Canetさんに、情報デザイン学部の2年生を対象として特別授業を行っていただきました。お二人は、オーストリアのUniversity of Art and Design Linzから岐阜の情報科学芸術大学院大学(IAMAS)に研究に来ていらっしゃいました。

多くの作品の構造やコンセプトを、GuljajevaさんとCanetさんが交互に紹介しながら、丁寧に解説していただきました。

ベラスケスが描いたマルガリータ・テレサの肖像をモチーフにした作品は、コンテンポラリーアートを敬遠しがちな中高年に人気を博した作品だそうです。

学生は熱心に聴講し、「いつ発想が浮かぶのですか?」「作品制作においてこだわっている点は?」など、多くの積極的な質問がありました。お二人も『Good question!』とおっしゃりながら、時間ギリギリまで熱心に答えてくださいました。



ベラスケスが描いたマルガリータ・テレサの肖像をモチーフにした作品を解説するCanetさん(左)

## 卒業生の活躍 — NHK松江放送局で活躍中の卒業生制作の番組が放映 —

6月1日、NHK総合「おはよう日本」内で本大学卒業生の高野史哉さんが制作した「島根県NPO:「飲食店の開業」助けます」が放映されました。4分間の番組内ではナレーションも高野さんが担当されています。

高野史哉さんは2010年に情報学部情報デザイン学科を卒業し、現在はNHK松江放送局で番組制作に携わっています。昨年9月以降、松江放送局で制作放映されている「アラハタQUEST」ではこれまでに3作品を制作し放映されています。最新作は「Shall we 舞 dance?(5/29放送)」です。



高野さん制作の番組を鑑賞する学生

その他の制作は第6回と第9回です。<http://www.nhk.or.jp/matsue/arahata/>(アーカイブから見るができます)

在学中は映像制作系のゼミやサークル「映画研究同好会」で映像制作を行い活躍すると共に、CGクリエイター部門2級(現エキスパート)の資格を取得するなどの勉強家でした。卒業後の夢は「テレビ番組制作に携わる仕事」、夢をかなえた高野さんの今後の活躍がますます楽しみです。

# プレゼミナールで学ぶ社会の諸相

現代社会学部

## 110万人のエコ講座

現代社会学部では、1年次の学生に対して、プレゼミナールを開講しています。ここでは、チューターの教員が、担当学生に対して、大学での勉強、生活にうまくなじめるように個別指導を行うとともに、2年次以降、本格的に社会学を学ぶための導入教育を各ゼミ合同で行っています。

6月1日には、「110万人のエコ講座」を受講しました。「ごみ減量・リサイクル」をテーマに、広島市のごみ問題の現状、家庭ごみの分別の注意点などについてお話を伺いました。はじめに、ごみとは一体何か、ごみの種類にはどんなものがあるかについて伺った後、広島市のごみの種類別排出量の推移、法制度について、さらに、ごみ排出量の削減をねらった有料化問題についても考えました。この春、一人暮らしを始めた学生はもちろん、自分達がふだん何気なく捨てているごみの行方について考える良いきっかけとなったようです。



ごみ問題の現状を聞き、対応策を考える

## 認知症サポーター養成講座

1年生、オレンジのリストバンドの認知症サポーターに



ロールプレイで高齢者への接し方を学ぶ

6月22日には、大学もよりの瀬野川東地域包括支援センターに協力を仰ぎ、認知症に関する講義を企画しました。当日、学生は、認知症サポーター養成講座講師の賀来先生から、認知症の原因や症状、そして、お年寄りがどんな場面でもどのように困っておられるかについてお話を伺いました。さらに学生は、認知症のお年寄りにどのように接したらよいかを学ぶロールプレイを体験しました。この講義を受講し、認知症サポーターとして認められた学生たちは、認知症に関する知識に基づき、日常生活の様々な場面で、お年寄りの力になることが期待されます。

## 被災地支援について専門家に話を聞く

福祉の視点から被災地支援に入られた専門家のお話を聞いて

6月29日には、特定非営利活動法人「かべ工房村」代表の国松浩司さんから、東日本大震災被災地での支援活動についてお話を伺いました。国松さんは、東北関東大震災・共同支援ネットワークに、宅老所・グループホーム全国ネットワーク世話人のメンバーとして参加され、石巻市に行かれました。現地では、複数の避難所の運営に関わられ、普段から地域のつながりが強い地域において、地域の人間関係を生かした避難所運営ができれば、避難生活を送る方々の生活を手厚く支えることができるということを実感されたそうです。最後には、現地にボランティアに行く様々な方法を教えていただき、学生に、「ボランティアに行ってみよう」と声をかけていただきました。学生からは「福祉の観点からの被災地支援のお話はこれまで耳にしたことが無く勉強になった」「是非、ボランティアに行ってみよう」と感想が聞かれました。



被災地支援活動に関する国松さんの講義



## 女子部同窓会総会

### 第1回自動車短期大学部 女子部同窓会さくらの会開催

桜満開と思い出多い上瀬野キャンパスにおいて4月16日、短期大学部女子部同窓生37名(134名中)と同窓会役員、お世話になった恩師33名をお招きし、第1回自動車短期大学部女子部同窓会さくらの会が開催されました。参加者全員揃って正面玄関で記念写真を撮り、会場を学生食堂に移し、幹事の第38期生角丸(旧姓河本)真希さんと川口(旧姓高田)裕美さんの司会により、「東日本大震災の犠牲者」に黙祷を捧げた後、車田同窓会長、奥田学長、鶴理事長、西本名誉学院長、知名短大部長からのご祝辞をいただき、西田同窓会副会長の乾杯のご発声で歓談が始まりました。

恩師や友人と美味しい料理をいただきながら、学生時代の懐かしい思い出に時を忘れて語り合いました。特に西本名誉学院長(短大の創始者)より、人生教訓のお言葉入り色紙をいただき皆とても感激していました。

卒業生からは「何年ぶりかで再会した友人と語り合え、懐かしい先生方にもお会いできとても楽しいひと時を過ごせた」「次回も必ず参加したい」などの声もあり、とても有意義な時を過ごすことができました。

女子部同窓会のネーミングについてアンケートがとられた結果、「さくらの会」が選ばれ「女子部同窓会さくらの会」と命名され、幹事の絶妙な司会進行で大盛況な中、次回の再会を約束し閉会となりました。本短大同窓生、教職員の皆様のご尽力ご協力に感謝いたします。お二人の幹事さんお疲れ様でした。



久々の再開に笑顔満開

## 卒業生の体験報告 先輩の話=仕事への生きたアドバイス

6月2日、1年生の就職支援ゼミ「クルマの整備業」の講義の一環として、広島トヨペット(株)から平成20年専攻科卒業の中島聡さんと採用担当係長矢野博之さんに来校いただき、「仕事の取組み」から「就職活動」まで幅広く生き生きとした講演をしていただきました。

中島さんの、オートバイに興味を持ったことからレーサーを目指したこと、本短大の専攻科で勉強し、1級整備士の国家資格を取得したことなどのドラマチックな話に学生は目をみはりました。



先輩の話に興味津々

さらに社会人になって3年、最初は言われたことをやるだけであったが積極的に取り組むことで仕事を任されるようになり、責任が重くなって苦しいところもあるものの、その分やりがいがある楽しいとの話は、学生の胸に響くと共に中島さんの仕事に対する自信と成長ぶりを示すものと考えられます。

「整備士はお客様の命を預かる大切な仕事、ミスはできない」「時間を守る」等学生時代から修得すべきことに関し沢山のアドバイスをいただき、学生は日々の生活をも見直す契機になりました。

## 水無月祭を開催 — 球技とバーベキューを楽しむ —

本短大では、毎年6月の第1土曜日に学友会主催で水無月祭を行っています。今年も6月4日に上瀬野キャンパスの体育館でソフトバレーボール大会を開催しました。

開会の挨拶で奥田学長は、水無月の由来には色々な説があることを説明しました。参加した学生は水無月についての意味・由来を聞き、改めて見識を深めたのではないかと思います。

開会式の後、ソフトバレーボール大会が始まりました。ゲームは6人で1つのチームを構成し参加。それぞれ仲の良い友達グループやサークルグループ、学年グループ等に教員チームも加わり、トーナメント形式で楽しい試合が行われました。

大会終了後、体育館前の中庭でバーベキューを行いました。試合には参加できなかった学生も飛び入りで食事会に加わり、より一層楽しい場となりました。

なお、大会で1位から3位までに入賞したグループには賞品が贈られました。



ソフトバレーで盛り上がったゲーム

## 🍳 集団合宿 🔥

～心を一つにすることによって得られる感動～

本高校は4月に525名の新入生を迎えました。そして5月下旬、新入生集団合宿が国立江田島青少年交流の家で行われました。総合学科(150名)は5月20～22日、普通科(375名)は5月22～24日と分けて実施し、生徒達は合宿の目標である「社会的ルールを守る」「基本的な生活習慣を確立する」「クラスを越えた仲間づくりに努める」「好ましい人間関係を構築する力を身につける」「感動を得る努力をする」の5点を達成すべく、カッター訓練や体育祭練習に勤めました。また、「キャンプファイヤー」「飯ごう炊さん」「キャンドルの集い」など、各科オリジナルの行事も多数催され、生徒達の心が一つになる場面がたくさん生まれました。

それらの取り組み全てが目標に対して大きく寄与したものになったかどうか、今の段階ではまだ計り知れません。しかし、一つひとつのイベントで生徒達が見せる笑顔や青少年交流の家の方々の話を聞くときの真剣な眼差し、そしてカッター研修中や体育祭練習中の真剣な表情を見る限りでは、上記の目標達成に近づくことができたと確信します。



皆の協力で美味しい料理を作る(飯ごう炊さん)

## 第63回体育祭 人はいつも何かと戦い成長していく

PTA会長 澤田めぐみ

6月13日、「Each Other's Way ～戦いの途中～」をテーマに掲げ、第63回体育祭が本高校グラウンドで開催されました。雨天順延のため平日の開催にもかかわらず、たくさんの保護者の方が生徒達の応援に足を運んでく



大人びた浴衣姿で観客を魅了した盆踊り

ださいました。1年生男子の一条乱れぬ集団行動と女子のYOSAKOIは、入学して2ヶ月とは思えない素晴らしい団結力でした。2年生のフォークダンスは学校生活が充実していることが伝わり、楽しく踊る姿が印象的でした。3年生の盆踊りは、浴衣姿に身を包み、大人びた姿に観客席もうっとりしていました。どの競技も迫力がありましたが、生徒達が一番盛り上がったのは、学年別クラス対抗リレーでした。クラスの代表として最後まで諦めずにバトンを繋いで走る選手や、一生懸命応援するクラスメイトの姿に感動しました。1,353人の生徒達のすごいパワーを感じることができた1日でした。

## 国際交流 ノルウェーから留学生がやって来ました

5月6日、本高校にノルウェーからの留学生、スバガルド・グロ・ベトユニアさんがやって来ました。約8ヶ月滞在し、来年1月8日帰国予定です。

日本では3月11日、東日本大震災が発生し、多くの留学生達は来日を断念しました。しかし彼女は、日本へどうしても行きたいという強い希望を持ち続け、最後まで諦めませんでした。

ベトユニアさんは現在、普通科1年1組に所属。いくつかの授業に参加し、ノートも日本語で取っています。集団合宿でのカッター訓練、体育祭でのフォークダンスなど学校行事に積極的に参加し、多くの友人ができたようです。日本語は公文式で自学し、広島市にある日本語ボランティア「はるかぜ」様のご協力により、週2回指導していただいています。そのおかげで日本語学習は、本来のカリキュラムより少し早く進んでいます。校内で見かけたら、皆さんも日本語で話しかけてあげてください。



カッター訓練に参加したベトユニアさん(中央)



## 第23回定期演奏会

6月26日、広島市文化交流会館にて第23回定期演奏会が開催されました。当日は台風の影響もあり、あいにくの天気でしたが、梅雨空を吹き飛ばす元気いっぱいの演奏が披露されました。

第1部はクラシックでティモシー・マー作曲の『ノーブル・エレメント』や今年度の課題曲『薔薇戦争』より戦場にて』、そしてレスピーギ作曲の交響詩『ローマの祭り』が演奏されました。特に『ローマの祭り』は客席からの演奏でトランペットの音が響き渡り、観客を驚かせました。

第2部では、「空の彼方へ」と題して空にちなんだ名曲の数々を演奏し、ジャズや映画音楽、ミュージカル、J-POPやアニメソングなどあらゆるジャンルに挑戦し、誰もが楽しめるステージを披露しました。中でも『チム・チム・チェリー』に合わせて踊った国際学院名物タップダンスは、衣装とともに好評を博しました。

また、ジャズのナンバーではソロやスタンドプレーにひときわ大きな拍手が沸き起こりました。最後は『翼をください』の合唱で締めくくり、観客席からの温かい拍手が心に染み渡る演奏会となりました。

この定期演奏会を開催するにあたり、多くの方々から多大なるご支援をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、来年も引き続き足を運んでいただき、全国レベルの演奏を心ゆくまでご鑑賞いただければ幸いです。



聴衆の心を晴れやかにする元気で楽しいステージ



人形劇『三国志』ポスター

## 芸術鑑賞会「三国志」…中国の歴史を学ぶ

7月14日、まぶしい夏空から強い日差しが照りつける午後、広島市中区白島にあるアルソックホールにおいて、2011年度芸術鑑賞会が行われました。今年度の公演内容は、「日中共同制作大型人形劇『三国志』」です。三国志の世界は、闘争本能や征服欲など、今も昔も変わらない人間の本质が描かれ、時代や地域を問わず普遍的なテーマを持っています。それ故、高校生においても、漫画やテレビゲーム、歴史の授業、映画「レッドクリフ」など、日頃から身近に感じられる作品です。

13時開演。ナレーターの小気味よい台詞や解説に会場は引き込まれていきました。「人形劇」という言葉の響きとは裏腹に、精巧に作られた大型人形の表情やスケールの大きな動き、技術、優れた芸術性に感動しました。生徒からも「おもしろかった」という言葉があちこちで聞こえ、また、鑑賞態度、マナーの良さにも感心し、充実した時間を過ごすことができました。

## 広島県の高校ゴルフ界を牽引 男子団体3年連続優勝

広島県高等学校総合体育大会のゴルフ競技が6月7～8日、広島カントリー倶楽部八本松コースで開催されました。

本高校からは男子12名、女子1名が出場。初日には、男子は普通科3年5組の長谷川祥平君(廿日市市立大野東中出身)が2位、同じく普通科3年1組の村山駿君(呉市立昭和中出身)が3位につけていました。女子は普通科1年8組の境原茉紀さん(鈴峯女子中出身)が2位でした。しかし、最終日に男女とも大逆転し、男子は優勝が長谷川君、2位が村山君という結果となり、女子も境原さんが2位に大差をつけて優勝しました。男子団体の部では長谷川君、村山君、石中風太君(総合学科2年1組、呉市立昭和中出身)の3名が出場、3年連続の優勝を果たすことができました。

今後も全国大会での入賞を目指して練習に励んでいきますので、ご声援のほどよろしくお願いたします。



6月の大会で入賞を果たした選手たち  
(右から境原さん、石中君、村山君、長谷川君)



アクシデントをものともせず、大勢の学生が詰めかけた

## 留学生交流会

留学生会会長 <sup>こう</sup> 冠 <sup>りんぎょ</sup> 伶挙 (内モンゴル自治区出身)

私たち留学生会は、2010年4月に、留学生が有意義な大学生活を送ることを目的に作ったサークルです。留学生会は、入学したばかりの皆さんが、できるだけ早く大学の生活に慣れるための支援をすること、また、日本文化に対し、共に興味を持つ留学生と一緒に勉強することを目的としています。さらに、学校内外のいろいろな活動に積極的に参加するサークルです。

今年の留学生交流会は6月21日、学生課が主催し、留学生会が協力し頑張っていました。特に、当日の午前中、

JRの事故の影響で、大学に通じる交通がマヒし、参加予定の学生の一部が来られなくなってしまいました。それでも多くの留学生は、交流会に参加するために、安芸中野駅から学校まで約40分かけて歩いて行った留学生がいますし、何時間も駅前までバスを待っていた学生もたくさんいました。留学生の皆さんのどうしても交流会に参加するという情熱と積極性を強く感じました。

また、交流会での日本人の学生達の演芸はとても面白く、当日の留学生交流会の雰囲気は、大きく盛り上がりました。今回の留学生交流会は、食事の内容や量など、参加された学生や先生たちに大好評でした。そして各学部の参加された先生の人数が、昨年より増え、留学生交流会は、大変盛会で終わることができました。

来年も留学生交流会を行う予定です。また、来年を楽しみに、交流会でお会いしましょう。

## 第23回学外展 *liberté* ~リベルテ~

第44期学友会文化局 局長 <sup>はやて</sup> 坂本 颯  
(広島市立広島工業高校出身)

7月18日の「海の日」に、広島国際学院大学学友会文化局主催による第23回学外展「liberté ~リベルテ~」を安芸区民文化センターで行いました。

学外展は、本大学の文化系サークルが日々の活動成果を市民や他大学などに公開、交流を深めてもらう年間行事の1つです。

今年は展示のみの開催にもかかわらず、「写真部」「電子計算機研修会」「表千家流茶道部」「ボランティア部」「競技麻雀愛好会」「留学生会」「Enjoy&Create」「文芸部」「TOY BOX in the



今年初出展の「Enjoy&Create」



大作を披露した写真部

movie」「放送通信研究会」の10サークルが数多くの個性溢れる作品を出展・上映してくれました。

今年の学外展は、開催場所が立町キャンパスから安芸区民文化センターへ変更となり、今までの開催場所では展示できなかったような新しい作品が出てきました。

また、今年初出展である「Enjoy&Create」では、自主制作のシルバーアクセサリーや手芸が出展されました。また同じく初出展である「文芸部」ではオリジナル小説の出展が行われ、とてもいい経験になったのではないかと思います。

来年度も学外展を開催するにあたり、出展・上映されるサークルが成長できる場になることを願っています。



学生時代の思い出と社会人になって思うこと

## 現役メカニックの努力、花開く —仕事と勉学の両立で自動車整備士1級を取得—

角モーターズ(有) 勤務 <sup>もりとう</sup> 森藤 <sup>いさお</sup> 委三雄 (広島国際学院大学自動車短期大学部 平成12年3月卒業)



努力の末、見事合格を果たした森藤さん

勤務先の工場内でメカニックとして、またフロント業務にも携わっています。仕事の傍ら自動車整備士1級の資格取得を目指して勉強し、このたび晴れて合格することができました。今回の試験では震災の影響で問題用紙を持ち帰れず、合格発表までとても不安でしたが、その分嬉しさは倍増で鳥肌が立ちました。協力してくれた社員・家族が私以上に合格を喜んでくれたのが印象に残っています。

仕事と勉強の両立は大変ですが、自分自身がしっかりと目標を持って臨めば苦にならないものです。食事や睡眠のように、勉強も習慣になれば何の工夫もありません。毎日少しでも机に向かう、それを繰り返せばいいだけです。

業務に際しては自動車のプロフェッショナルとして中途半端なことはせず、お客様に信頼されるサービススタッフになれるよう常に心がけています。多忙ですがやりがいがあり楽しいです。「調子が良くなったよ」「ありがとう」など、お客様から感謝の言葉をいただくのはいつも嬉しいものです。

短大在学中に学んだこと全てが現在の業務に役立っています。座学では知識を習得し、実習では体で覚える。人の話を聞くことや体験することにマイナスはないと思います。現在もいろいろな講習に積極的に参加し、今後役に立つ知識を蓄えています。

私の在学中は学業もアルバイトも遊びも全力で、眠る暇もないくらいでした。後輩の皆さんも何事にも全力で取り組み、悔いのない学生生活を送っていただきたいと思います。

## 東日本大震災、本学院の支援活動

3月11日に発生した東日本大震災で被災された皆様に、改めてお見舞いを申し上げます。この震災を受け、本学院も様々な支援活動に取り組みましたのでご紹介いたします。

大学では、学友会の要請を受けたボランティア愛好会(現ボランティア部)が活動を展開。3月19日に卒業式会場で義援金を募りました。翌20日には留学生愛好会(現留学生会)も街頭募金活動を行いました。集まった義援金328,612円は3月23日に中国新聞社会事業団に届けられました。また学生部に募金箱を設置。ボランティア部が集計し、5月9日に第2回目の義援金として48,000円を同事業団に寄付しました。さらに、支援物資の仕分け作業に学生4名がボランティアとして参加。市民から提供されマツダスタジアムに集められた数多くの物資を振り分け、仮設住宅用として5月に被災地へ送りました。



マツダスタジアムでの物資仕分け作業  
(写真提供：広島市)

短期大学部でも、学内行事を機に義援金を集めました。卒業記念パーティーでは14,683円を、後援会でも40,000円の募金を得て中国新聞社会事業団に送りました。

高校は震災直後の3月15日から19日まで校内で募金活動を実施。集まった義援金411,366円を4月5日に日本赤十字社広島県支部へ届けました。4月も校内およびJR海田市駅前でも募金活動を行った結果、月末までに126,000円を集め、5月9日に大学の義援金とともに寄付しました。6月11日の体育祭でも12,930円を集めました。

現在も大学学生部で義援金を受け付け、高校もイベント時に募金コーナーを設けるなど支援活動を続けています。



高校生徒による街頭募金活動 (JR海田市駅前)

伊能忠敬日本測量開始210周年記念  
**完全復元伊能図**

全国巡回フロア展

in 広島国際学院大学



伊能忠敬の全業績がここに集結  
 日本初の本格的地図を、見て、歩いて、体験  
 広島国際学院大学によみがえる伊能大図！

<b>開催日時</b>	平成23年11月4日(金)～6日(日) 10:00～17:00 ※入場は16:00まで	<b>入場料</b>	無料
<b>開催会場</b>	広島国際学院大学体育館 (広島市安芸区中野六丁目20-1)	<b>交通経路</b>	JR山陽本線…中野東駅下車 (無料シャトルバス5分、徒歩15分)
<b>お願い</b>	◆会場内は安全を考慮し、入場制限をさせていただく場合があります ◆会場内の地図上を歩いて閲覧する際は、必ず靴下を着用していただきます ◆学生食堂のご利用時間は10:00～16:00となっています		

- 主催 広島国際学院大学 / 広島国際学院大学自動車短期大学部 / 広島国際学院高等学校  
 ■後援 ウオーク日本1800 (環境省 / 厚生労働省 / 農林水産省 / 国土交通省 / 文部科学省(文化庁) / 経済産業省)  
 広島県 / 広島県教育委員会 / 呉市教育委員会 / 中国新聞社 / (社)日本地理学会  
 ■協力 完全復元伊能図全国巡回フロア展中央実行委員会  
 (伊能忠敬研究会 / (社)日本ウォーキング協会 / (社)日本測量協会 / (社)全国測量設計業協会連合会  
 (日本土地家屋調査士会連合会 / (財)日本地図センター / (財)日本測量調査技術協会 / 日本私立大学協会)  
 (株)間組

★ 今後の主な行事予定 (赤字は公開行事です)

学 院 伊能図展 (11/4～6)  
 大学・短大 高城祭 (10/22～23) 推薦入試 (大11/17 短1期11/12 2期12/17)  
 冬期休業 (大12/24～1/6 短12/24～1/5)  
 高 校 中間考査 (1・3年10/14～18 2年10/4～7) 修学旅行 (2年10/13～17)  
 文化祭 (11/20) 期末考査 (12/8～14) 終業式 (12/22) 始業式 (1/7)

この広報誌及び第三者認証評価結果はホームページでご覧になれます。 <http://office.hkg.ac.jp/>

高校生以上の方に図書館を開放しています。 詳細は図書館までお問い合わせ下さい。TEL082-820-2536